●今日の声かけ いきいき未来●

愛育

NO. 48
2024

発　　行／令和６年３月30日
編集発行／社会福祉法人
恩賜財団母子愛育会愛育推進部
〒106-8580
東京都港区南麻布5-6-8
TEL　03-3473-8315
URL　http://www.boshiaiikukai.jp/

愛育班員の皆さまへ

野の花が咲き、木々が枝葉を伸ばすこの季節を、皆さまはいかがお過ごしでしょうか。

日頃から、愛育班員の皆さまは、それぞれの地域で人々の暮らしを支え、「お元気ですか」「お変わりありませんか」と人々に言葉をかけ、子どもたちの成長や高齢者の様子を見守ってこられました。そして、赤ちゃんからお年寄りまで幅広い年齢の人々との心のふれ合いを大切にされてきました。さりげない優しい言葉や暖かな眼差しで人々に安心感を与え、孤立して寂しい思いをする人の力になり、この街に住んでいて良かったと感じられる地域作りを担う皆さまに大変感謝しております。

毎年の愛育班員全国大会では、集われる愛育班員の皆さまから、活動報告や手記の発表を伺い、特別講演を聴講しております。皆さまが保健師とご一緒に地域の人々のことを常に思いながらご活躍されていることを大変心強く思います。

平成二十六（二〇一四）年に山梨県南アルプス市を訪問し、愛育班の活動を見学するとともに、愛育村の時代からの貴重な資料を見せていただきました。以後、北は秋田県から南は大分県まで九か所を訪ね、親子で楽しむ「ふれあい」の時間や高齢者の介護予防体操など、愛育班の様々な活動にふれ、参加しました。地域の課題と向き合い、人々の良き相談相手となり、困難を抱える人々に寄り添う活動から、「愛育の輪」の確かな広がりを感じております。

愛育班員の皆さまが、育成者の保健師や行政の関係者と協力して地域の人々の健康を守ってくださっていることに深く感謝いたします。活動の担い手が高齢化し、ライフスタイルが変化することによって、これまで通りの愛育班活動の維持が難しくなっている地域もあると伺いました。班員のお一人おひとりがご自身の生活を大切にされつつ、皆さまが工夫されながら、それぞれのペースで「愛育の心」のバトンを未来へ繋いでいかれますよう心から願っています。

皆さまには、どうぞこれからもご体調に気をつけて、お健やかにお過ごしくださいますように。

恩賜財団母子愛育会総裁　秋篠宮紀子

特集　～第55回愛育班員全国大会～

令和5年4月11日（火）、明治記念館　富士の間において、総裁　秋篠宮皇嗣妃殿下ご臨席のもと、全国の愛育班員や関係者225人の方々のご参加をいただき愛育班員全国大会を開催いたしました。本大会は愛育班員の方々の活動に感謝の意を表し、総裁表彰、会長表彰を行うと共に、愛育班活動を充実・発展させることを目的に開催しています。

今回は、総裁表彰1団体、会長表彰を班員10名、育成者4名が受賞し、手記では優秀作1名、佳作2名、審査委員特別賞1名が表彰されました。

コロナの影響を受けた愛育班活動も徐々に以前の状況に戻りつつある中、藤内修二先生（大分県福祉保健部／理事兼審議監）の特別講演では、あらためて「地域のつながり」や「お互い様の関係」を深め「地域での支え合い」で住みよい地域づくりを進めていく愛育班活動の重要性を見直す機会となりました。

開会　総裁のおことば

総裁は、永年にわたり活動してこられた愛育班員の皆様、保健師として愛育班の活動を導き支えてこられた育成者の皆様への深い敬意と、本日表彰を受けられる方々にお祝いを伝えられました。また、ご視察をとおして愛育班員と直接お会いする時間を大切にして参りたいと愛育班へのお気持ちをお伝えになりました。総裁の温かいお言葉に会場内が包まれ、春らしい和やかな雰囲気のなか、式典が始まりました。

第55回大会の式典（総裁のお言葉を含む）は当会HPから視聴できます。（詳細は8面参照）

表彰式

班員代表　井上登志子さん

（会長表彰　班員）

植田富美子（埼玉県蕨市母子愛育会）
中村アイ子（埼玉県ふじみ野市母子愛育会）
三谷　きみ（埼玉県ときがわ町愛育班）
潮　かち子（甲府市愛育連合会琢美地区自治会連合会女性部愛育会）
山田　勝美（山梨県大月市愛育会）
小林　芳子（兵庫県豊岡市竹野愛育班）
笹田　鈴香（兵庫県佐用町江川地区愛育班）
藤本　幸子（岡山県倉敷市愛育委員会連合会）
堀家　清子（香川県琴平町母子愛育会）
井上登志子（竹田市愛育保健推進会）

（総裁表彰）　岡山県

岡山県は昭和25年「母と子を守りたい」と真庭郡川内村に愛育班が誕生して以降、今日まで県下全域に愛育委員設置を推進してきました。昭和52年から母子保健三冠王を3年連続で達成。愛育委員と共に県民の健康増進に取り組んできた功績が評価されました。

総裁表彰　岡山県

（会長表彰　育成者）

清水　弘美（福井県鯖江市健康福祉部社会福祉課）
押田　淳子（兵庫県佐用町健康福祉課）
猪元　信子（岡山県真庭保健所）
佐藤　智恵（大分県豊後大野市市民生活課）

育成者代表　押田順子さん

（模範愛育班指定）

埼玉県加須市母子愛育連合会

愛育班活動を普及し充実させるため、模範的な愛育班を模範愛育班として指定し、愛育班活動の見学実習の受入れをお願いしています。加須市母子愛育連合会は、令和5年7月6日（木）に班員7名の実習生を受け入れました。

加須市母子愛育連合会　加藤光江会長

「愛育班員の手記」の入選者

優秀作：人を繋いでくれる場所（香川県小豆島町あいいく会　山本　香織）
佳　作：コロナ禍だからこそ再活動（埼玉県さいたま市保健愛育会南浦和地区　横山　真由美）
佳　作：恩返し（山梨県北杜市母子愛育会高根愛育班　高島　絵里）
審査員特別賞：優しさのおすそ分け（福島県南相馬市母子愛育会）

活動発表の様子

受賞者の活動を紹介するスライドと共に功績をご紹介しました。

活動発表の様子

ご懇談の様子

　式典に先立ち、若竹の間にて総裁とのご懇談を行いました。総裁から一人ひとりに温かい励ましのお言葉を頂き、受賞された皆さんにとって忘れられないひとときを過ごしました。

優秀作品をご紹介します。

優秀作　「人を繋いでくれる場所」

香川県　小豆島町あいいく会　山本　香織

山本　香織さん

　「お元気ですか。」「いつも頑張ってるね。」きっとその一言で救われる人がいる、そう思って私は明るく笑顔で声をかけ続けるのです。以前の私自身がその一言に救われた時のように。
　主人の故郷である小豆島に戻って暮らし始め、3人目の出産をしたばかりのことです。島外から嫁ぎ、慣れない土地で義理の両親と新しい生活をする中での気遣いや、友人知人が少ない環境で思うようにならない子育てに、私はとても悩み疲れていました。そんな心細い時に町の保健師さんから愛育会の活動を聞き、誰かと繋がりたい一心で入会したのです。
　当時の小豆島町あいいく会は会員数の減少から存続が危ぶまれていました。しかし、私のように誰かと繋がる大切な居場所を必要とする人がいる限り、どうにか守らなくてはなりません。再び会を盛り上げるべく、子育て真っ只中の若い母たちや先輩方、地域の力を借りてこの10年間奮闘してきました。
　子育て世代を中心とする会員さんに向けた活動、時代に応じたSNS等を用いての運営により、地域での子育て環境の活性化を願って活動を進めています。会員数の増加とともに行政の子育て施策への提言もできるようになってきました。愛育会に入会し、救われたいと願っていた私自身と重なるように、衰退していた会も随分元気を取り戻したと言えるでしょう。
　しかし、生き方の多様化する現代の子育ては本当に大変です。新型感染症など誰もが困惑する状況や社会情勢、子育てだけに留まらない深い悩みも次々と出てくることでしょう。そんな時こそ一人で抱え込まずに誰かに甘え、周りに頼って自分を大切に生きていって欲しい。「あなたには私がいます。私にはあなたがいます。」そう気持ちを伝え続けることが大切だと思うのです。だから私はこれからも小豆島の地で優しく温かい“あいいく”の輪を繋ぐ活動を続けていきます。愛が届くようにと。

特別講演　「愛育班の力で地域の絆を深め、健康寿命を延ばそう」

藤内修二先生

講師：大分県福祉保健部　理事兼審議監　藤内修二氏

　愛育班活動を通して、地域の『絆』をさらに深めるためには、地域の課題を皆と共有し、その解決に多くの地域住民を巻き込むための5つのプロセスが大切で、班員さんだけではなく保健師をはじめとする行政の支援が有効だと伝えて頂きました。

5つのプロセス

①地域の課題について「知る」	地域の実情をわかりやすく「見える化」する
②地域の異なる組織をつなぐ	課題の解決に関わる多くの組織を巻き込む
③地域の課題について話し合う	解決に向けて自分たちに何ができるかを話し合う
④できることから取り組む	まずは「小さな一歩」から
⑤活動について知ってもらう	自分たちの活動を報告する機会をつくる

藤内修二先生の講演は当会HPから視聴できます。**（詳細は8面参照）**

秋晴れのもと　総裁をお迎えして

南相馬市母子愛育会　上原　愛子

令和４年の総裁表彰後、一度御視察のお話があるも残念ながら叶いませんでしたが、令和５年９月に待ちに待ったご訪問が現実となり、今までに無い秋晴れのもと『親子いもほり大会』となりました。親子いもほり大会は、東日本大震災後の環境変化の中で子ども達が外遊びが出来ない中、１人のお母さんの『子供達に土遊びをさせてあげたい』と言う一言がきっかけで始まりました。幸いなことに畑の土の線量を測定したところ、さいたま市の畑の土と同量で安心して子ども達に楽しんでもらえる！！と、母子愛育会設立の翌年の平成26年５月、芋の苗を植え９月には芋掘りができ、お母さん達の笑顔と、大きな芋を掘りあてた子ども達の満足げな表情は今でも忘れられません。

表彰式の後のご歓談で、総裁に『是非子ども達との芋掘りにいらして下さい』と言った一言が本当に実現すると喜びでいっぱいでしたが、９月になると毎日お天気が心配で、毎日スマホで天気予報を確認、１週間前頃からは２、３時間おきにスマホと睨めっこでした。万が一の雨天の場合に備えて『ぽにたん広場』の活動も担当を決めて皆でリハーサルを行いました。

幸いにも当日は早朝まで降っていた雨もやみ晴天の中、皆心をひとつにして総裁をお迎えすることができました。お車から降りられた総裁が我々と同じユニフォーム姿だったことに会員一同大喜び！総裁はすぐに受付に移動され、担当者と一緒に受付で参加者一人一人にお声をかけたり、軍手を忘れた参加者にはご自分の軍手をお貸しくださる場面もありました。畑でも子ども達に声をかけられ一生懸命芋掘りをされるお姿は本当に微笑ましく感動でした。親子いもほり大会終了時には、虹がかかり更なる感激！！

子ども達は大きな芋を袋いっぱい掘って大満足。孫さんと参加されたお祖父様は『今日はホントに最高の芋掘りだった』と汗だらけの真っ赤な顔をくしゃくしゃにして話されていました。終了後、大きな芋を掘りあてた上位３人に総裁からメダルを首にかけていただき、子ども達（親）は一生忘れられない思い出になったと思います。閉会時には総裁より私たちの活動を労うお言葉や励ましをいただき、全てを包み込む素晴らしい笑顔に感銘を受けこれからの活動の励みとなりました。南相馬市母子愛育会は会員の高齢化、少子化に伴い自主活動における参加者数の減少等、活動をどう変えていくか色々と問題はありますが、『出来ること無理しないで楽しんで』をモットーに続けていきたいと思います。

総裁をお迎えして

母子愛育会埼玉県支部

令和６年１月18日、総裁の埼玉県愛育班活動のご視察でときがわ町へのご訪問が実現しました。埼玉県支部の理事８名も参加した中で埼玉県支部の概要説明後、上尾市・蕨市・白岡市の活動紹介がありました。熱心に耳を傾けてくださる総裁のお心遣いに感動し、活動の意欲につながりました。ホールでは「子育てサロン」をご覧いただきました。

いつも通りの活動をご覧いただきたいと思い、班員・保健師・講師で話し合いを重ね０～２歳児で楽しめる「キットパス」「パラバルーン」を企画しました。11組24名の親子で赤ちゃんの手形足形を取り色とりどりな大きな虹色の木を描きました。５メートルのパラパルーンでは全員が一つの輪になり曲に合わせてパラパルーンをゆらすと風船がふわふわ飛んで子どもたちは大喜びでした。総裁は今日の行事に合わせ愛育班バッチをつけ、スラックス姿でご参加され、赤ちゃんを抱っこしあやされるなど、笑顔で声をかけられお母さん方を励まされていました。

会場を移動して愛育班を支える育成者（保健師）との懇談会が行われました。コロナ禍の激務をねぎらわれ、保健師が支援状況を話しているときにもメモを取られ熱心に聞いてくださるご様子に緊張が解けていき仕事をする上での励みになったとの感想があります。

地域で活動する班員と保健師は車の両輪であることを再認識できました。

最後に高齢者が集う一ト市（ひといち）地区の「地域ふれあい交流事業」では椅子に座って行う介護予防体操にもご参加されました。その後愛育班事業で力を合わせて作成した、ちぎり絵民話の大型紙芝居を班員が披露し、終わりに「ふるさと」「たき火」を合唱しました。総裁はひとりひとりに声をかけられ、感激した高齢者の皆さんの様子が印象的でした。

埼玉県支部理事とご一緒に記念写真

パラバルーンの揺れを楽しむ親子と共に

総裁のご視察により愛育班活動を初めて知事・県議会議長に見学いただき埼玉県支部といたしましては感謝の気持ちでいっぱいです。

お帰りの時には準備に協力した班員に総裁から感謝と励ましのお言葉をいただき「あいいくの心」でいっそう愛育班活動に励む大きな力となりました。少子高齢化がすすみ活動を続けていく環境が難しくなってきていますが，子ども達の明るい未来のためにあきらめずに愛育班活動に励んでいきたいと思います。

第59回愛育班長研修会　開催報告

参加者7名

情報交換や実施研修を通して、参加した研修生は自身が所属する班の状況を当たり前と思っていたが、それぞれ行政の保健師の育成者としての役割や班員との関係性、班の運営方法、班員の確保の方法など、違いを知り、それぞれの良いところ、参考に出来ることなどを持ち帰ることが出来ました。

共通する課題は、愛育班の活動の停滞、班員や地域の高齢化、少子化で子どもが少なくなっているなど。また、市の補助金をいただいている班もあれば、活動費の確保で苦労しているという報告がありました。情報交換や意見交換を積極的に行う中で、愛育班活動は、市町村ごとの違いはあるが、地域住民の健康を守り、声かけや見守りの活動を通じて、安心して住みよいまちをつくるために活動をしていくという共通の目標があることを再認識し、自身の班に戻ってからの活動について思いを膨らませておりました。

開催日	内容	
令和5年 7月5日（水）	情報交換	わが町の愛育班活動
	講義	愛育班活動の歴史（愛育推進部長）
7月6日（木）	実地研修	埼玉県加須市母子愛育連合会 活動見学 「みんなで楽しい運動会」
	講義	加須市の概要と母子保健について （加須市保健師）
	講義	加須市母子愛育連合会の活動紹介 （加須市母子愛育連合会）
	意見交換	研修生と加須市の班員の交流
7月7日（金）	GW	実地研修から今後の活動に活かすこと
	講義	班長の役割と活動の実際（埼玉県支部長）

研修生と加須市母子愛育連合会の皆さん

健やか親子21
シンボルマーク

健やか親子21全国大会

令和５年度健やか親子21全国大会は、「親子の笑顔が明るい未来をつくる！～すべての親子が笑顔でいられる社会を目指して～」をテーマに栃木県宇都宮市で11月9・10日に開催されました。式典では、母子愛育会会長表彰を41人2団体が、健やか親子21内閣府特命担当大臣表彰では、本会推薦の「北茨城市愛育会」が功労者表彰（団体）を受賞されました。お祝いを申し上げます。

シンポジウム「関係機関の顔の見える連携～親の不安に地域で寄り添う体制づくり～」の基調講演で秋山千枝子先生が「切れ目のない支援に向けて～バイオサイコソーシャルの視点～」のテーマでご講演されました。

子どもの最善の利益を考慮し、身体と心の側面のみならず、環境（社会）の3つの視点で子ども達を幸福“ウェルビーイング”にすることが大切だと、こども家庭審議会幼児期までの子どもの育ち部会から基本ビジョンが出されました。子どもの幸福を社会全体で支える地域づくりについて保健師、班員の皆さんで話し合っていただくきっかけとなるよう、秋山千枝子先生に「愛育」にご寄稿いただき、6ページから掲載しております。

母子愛育会会長表彰（敬称略）

愛育班員	加藤由美子	埼玉県
	澤田加代子	埼玉県
	中島　孝子	山梨県
	中西　千鶴	兵庫県
	荻原　陽子	兵庫県
	前川　早苗	岡山県
	辻　千枝子	香川県
育成者	上原　恵美	兵庫県
	田北　良子	大分県
団体	古都学区愛育委員会（代表：竹内富美子）	岡山県
	丸亀市母子愛育班連絡協議会（班長：中野実千代）	香川県

厚生労働大臣表彰（敬称略）

北茨城市愛育会（会長：小松　領子）　栃木県

全ての子どもの育ちを支える
～バイオサイコソーシャル～

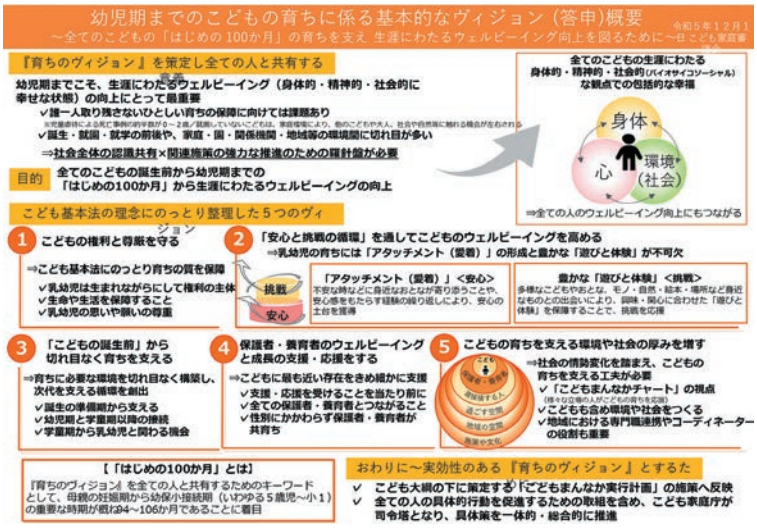
あきやま子どもクリニック
秋山　千枝子

【プロフィール】
福岡大学医学部卒。
平成９年10月あきやま子どもクリニック院長現職
平成12年８月医療法人千実会理事長現職
＜役職＞こども家庭庁虐待防止対策部会委員、こども家庭庁子どもの育ちに係る部会委員、他多数

ウェルビーイングの向上を目指して

こども家庭庁に、こども家庭審議会幼児期までのこどもの育ち部会が設置され、「幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なヴィジョン概要～全てのこどもの「はじめの１００か月」の育ちを支え生涯にわたるウェルビーイング向上を図るために～」（令和５年12月22日閣議決定）（表１）がだされました。そこには『本ビジョンにおいて、ウェルビーイングは、身体的・精神的・社会的な全ての面を一体的に捉えた観点（バイオサイコソーシャルの観点）での幸福を指す概念であり、換言すれば、こどもの持つ身体と心、周囲を取り巻く身近な環境や社会的状況、より広い環境としての社会（以下「環境（社会）」という。）を一体的に捉えたものである。また、ウェルビーイングの向上を、生涯にわたり実現することが、こどもの最善の利益を考慮していく上で重要である。なお、身体と心の側面のみならず、環境（社会）についても、こども一人一人多様であるといった視点に留意する必要がある。』と記載されています。これまで心身の健やかな育ちを求めてきましたが、もう一歩進んで、子どもたちを幸福〝ウェルビーイング〟にすることが大切だと考えられています。このウェルビーイングは子どもだけではなく、社会全体のすべての人にも通じるものです。そのウェルビーイングの指標となる「バイオサイコソーシャル（身体・心理・社会）」について、国立成育医療研究センター五十嵐隆氏は「子供の幸福〝ウェルビーイング〟を身体・こころ・社会の３つの視点で一体的・包括的に捉える考え方を、子供と日常的に関わる機会のない人も含む、全ての人との共通言語とすることにより、子供の幸福に向けて必要な全ての面での育ちを一体的・包括的に保障していくことが重要」と述べられています。

表１



幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン（はじめの 100 か月の育ちビジョン）｜こども家庭庁（cfa.go.jp）

バイオサイコソーシャルの視点

バイオサイコソーシャルの視点が重要視されるのは、ＯＥＣＤ加盟38カ国の順位付け（表２）があり、日本は身体的には38カ国１位でありますが、心理的には38カ国中37位、社会的には38カ国中27位という状況があるからで、日本の子供たちはけっして幸福とはいえません。バイオサイコソーシャルの観点で一人一人に見た時に、バランスよく整っている人もいるし、身体に何か心配なことがある人、心理的な問題もある人、全体的にうまくいってないようなこともあるでしょう。一人一人が異なり、多様性な社会を構成し、また、その時その時で変化をしていくと思われます。（図１）

母子保健あるいは福祉に関わっている人は、親子あるいは家庭の中にさまざまな課題があるのに気付いていると思います。例えば、クリニックに、落ち着きがないという子供が受診をしてきたとします。その子は

表２

子どもの幸福度（結果）の総合順位表

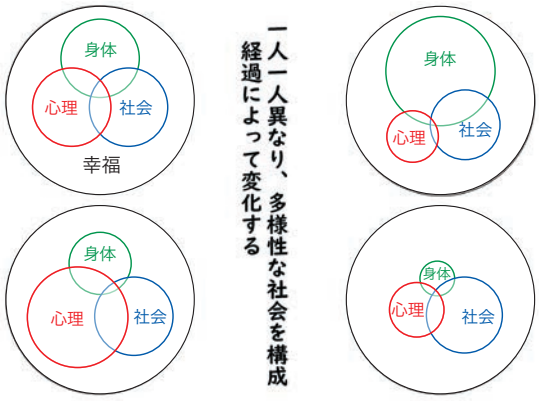
総合順位	国	PSYCHO 精神的幸福度	BIO 身体的幸福度	SOCIAL スキル
1	オランダ	1	9	3
2	デンマーク	5	4	7
3	ノルウェー	11	8	1
4	スイス	13	3	12
5	フィンランド	12	6	9
20	日本	37	1	27

©United Nations Children's Fund (UNICEF), 2020

https://www.unicef.or.jp/library/pdf/labo_rc16j.pdf

落ち着きがないということと一緒に園で他の子とトラブルがあります。一緒に来た母親は、弟の夜泣きで苦労しており、姑との関係で憂鬱な日々を送っています。そして、この家庭には親の介護もあり、父親はリストラで眠れない日々を送っており、家のローンや隣室との騒音トラブルがあるなど、多岐に渡って家族には問題があります。一機関のクリニックだけで、これだけの状況を把握できる訳ではなく、一つの家庭の背景を多職種で集約・整理して適切で効果的な支援に繋げることが必要です（図2）。また、各領域でバイオサイコソーシャルの視点を統一することで、一人一人が同じ視点で親子を見ることができ、支援の見落としがなくなり、バイオサイコソーシャルの視点をつなぐことが妊娠期から産前・産後、乳幼児健診、園や学校へと切れ目ない支援が可能になると期待します。

図1



「就学前のこどもの育ちに係る基本的な指針」に関する有識者懇談会　秋山提出資料

各領域でバイオサイコソーシャルの視点の相違

まず、産後ケア施設でバイオサイコソーシャルの視点は、身体面は母の持病や子どもの体重増加、心理面では産後うつ病などの精神症状、社会面では育児のサポート環境などに目を向けられています。

乳幼児健診のバイオサイコソーシャルの視点は、集団健診の場合では、保健スタッフが問診でサイコソーシャルの部分を聞き取っており、個別健診でもバイオだけではなくサイコソーシャルにも目を向けなければなりません。現在、こども家庭庁「身体・精神的・社会的に乳幼児、学童、思春期の速やかな成長発達をポピュレーションアプローチで切れ目なく支援するための社会実装化研究」において「健やか子育てガイド」が作成されており、栄養や運動について、心の健康について、遊びや行動について、睡眠について、家庭の状況や安全についての問診が示されています。

保育施設のバイオサイコソーシャルの視点は、社会面は子供の社会性の発達に目がむけられており、家庭環境は視点に含まれていないことから、社会面の捉え方が領域によって異なることが分かります。

学校のバイオサイコソーシャルの視点は、社会面の家庭の情報について家族構成を把握するに止まり、子供の声を聞く以外に、学校が持つ情報だけでは虐待やヤングケアラー等の発見は困難ではないかと思われます。

そこで、各領域におけるバイオサイコソーシャルの視点を明らかにし、その視点を妊娠期から成人に至るまで共有することで、切れ目なくつなげていくことがこれからの課題です。

米国のBright Futurs

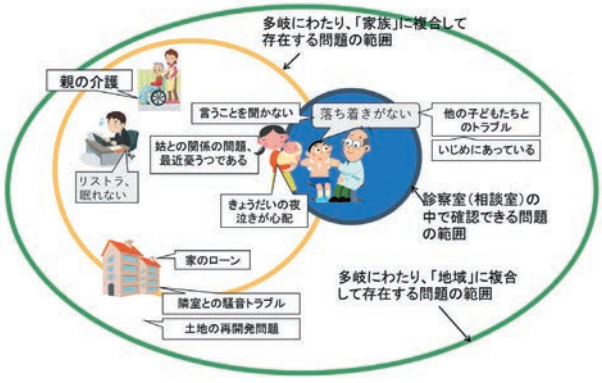
米国ではブライトフューチャーズという概念で、生後から21歳までの小児とその家族に対し、家庭・社会の環境調整、疾患の検出、予防・健康増進事前指導が行われています。日本は就学までは母子保健法での乳幼児健診、そして就学後は学校健診があり、米国とは異なった健診の方法が行われています。これからの乳幼児健診は妊婦健診を出発点として、障害があってもなくても、病気があってもなくても、一人一人の心身の健康をどのように考え、健康を維持し増進させていくかの視点を持ちつつ、子どもの将来の予測をし、その計画的な子育てを示す、このような乳幼児健診、子育て支援になっていくべきだと考えています。

子育て世代包括支援センターのガイドラインの作成にご尽力された佐藤拓代氏も、「親子の問題を指摘するのではなく寄り添って支援し、さらに支援を利用しにくい親子にも利用しやすく、全ての親子が健康増進を目指し、健やかな子育てができることを目指す新たな時代に突入したと言えます」と述べられていました。これからは全ての親子のウェルビーイングの向上を目指し、前向きに、計画的に寄り添っていきたいものです。

さいごに

子育て支援に関わる行政や、そして専門職、個人が切れ目なく支援をしていくためには、視点が同じでなければ途切れてしまいます。だからこそ、バイオサイコソーシャルの視点を共有しなければなりません。また支援者一人一人がバイオサイコソーシャルの視点で、自分自身が幸福であるかどうかの確認をしていくことも必要です。バイオサイコソーシャルという文言が共通言語になっていくのを願っています。

図2



「就学前のこどもの育ちに係る基本的な指針」に関する有識者懇談会　秋山提出資料

インフォメーション

令和６年度の愛育推進部の活動計画

（会議）

１支部長・連合会会長会議　令和６年４月11日（木）　母子愛育会本部

２愛育班等組織育成者担当者会議　令和６年７月１日（月）午後ZOOM会議

対象：15県123市町村の育成者

内容：愛育班組織調査の依頼、愛育班活動の今後の方向性について検討

（研修）

1　愛育班員育成者研修会

研修会と実地研修の２日間コースで７月～８月に開催予定

eラーニング、研修会（ZOOM）のみを希望する方も参加できます。詳しくはお問合せ下さい。

日時	内容	講師　所属
eラーニング	愛育班活動の歴史とこれから	愛育推進部長
7月下旬（現地実習）	愛育会館、山梨県愛育連合会活動参加など（予定）	山梨県愛育連合会
8月19日（月） 13:30 ～ 16:30	地域の強みを高める保健師のワザ（ZOOM）	大阪大学大学院保健学専攻公衆衛生看護学教室　岡本玲子教授

2　各地の班員研修等に本会職員を派遣します。愛育推進部までお問合せ下さい。（費用は無料です）

3　研修動画配信サービス

恩賜財団母子愛育会のホームページからアクセスできます。愛育班員全国大会の動画や班員、育成者向けの研修動画を順次公開していきます。

URL：https://boshiaiikukai.jp/　パスワードが必要です。愛育推進部までお問合せ下さい。

物　販

申込方法は、法人のHPをご覧ください。

- 愛育班員手帳2024　（特徴）「愛育班員証」「愛育班活動の基本」「ダイアリーとメモ」「住所録」等で構成されています。引き続き、愛育班活動のお供にご愛用ください。　（定価）550円（税・送料込）
  ※金額が変更しています。（税込価格から税別価格に変更したため）
- 愛育班活動紹介DVD「今日も声かけつながり合う地域」　１枚 1,100円（税込・送料別）
- 知ろう・活かそう　地区組織～コミュニティワークの実際　１冊 1,100円（税込・送料別）
- 愛育班員バッチ（ピンタイプ）　550円（税込・送料込）
- 愛育班員バッチ（キャップライプ）　660円（税込・送料込）

お申込・お問合せ

社会福祉法人恩賜財団　母子愛育会愛育推進部

TEL 03-3473-8335　FAX 03-3473-8454

愛育推進部メッセージ

『愛育班として何を大事にして活動すべきか？』『愛育班の継続のためには？』を考え続けた一年でした。支部の総会や研修の講師として各県を訪ねる機会を頂き、地域の子どもや高齢者のために「出来ること」を続けておられる班員さんや保健師さんとお話をするたびに、こんなに素敵な方々がいてくれる地域に住む住民さんはとても幸せだな・・と思わずにはいられませんでした。能登半島地震で被災された方々、被災地支援に従事している方々の報道を見るたび、人と人とのふれ合い、お互い様の気持ちを持ち続ける愛育活動を絶やしてはいけないと思いを強くしています。